

「ホームから見える花火

社員にとって思い入れの強い花火大会」



株式会社横浜シーサイドライン

運輸部 業務課

本吉 直樹（もとよし なおき）さん



金沢まつり花火大会は沿線で開催される一番大きなイベントです。当日は社長の陣頭指揮の下、約8割の社員が総出で業務にあたります。駅のホームや車両基地からも花火が見えるので、社員にとって思い入れの強い花火大会です。

たくさんのお客様がシーサイドラインを利用して来場されるため、弊社係員及び警備員への教育はもちろん、警察・消防・区役所と密接に連携することにより確実な安全の確保に努めています。

平成31年3月までの金沢八景の暫定駅で運行していた時代も、京急線から乗り換えるお客様で大変混雑していたのですが、去年は、京急金沢八景駅とシーサイドラインの新駅舎が繋がったことで、お客様を安全且つ確実に誘導するための警備計画の見直しが必要となり、関係者との調整を十二分に重ねて準備を進めました。当日は大きな事故やトラブルもなく、多くのお客様に花火大会を楽しんでいただきとても良かったと心から思っています。

金沢まつり花火大会の魅力は何とんでも距離が近いことですね！業務のためにシーサイドラインで移動中の車内でも花火の振動を感じるほどです。来年はぜひ、花火をたくさん打ち上げていただき、あの感動をもう一度味わいたいと思っています。そして当日は多くの皆様にシーサイドラインをご利用いただければとても嬉しく思います。

「地域に愛されている花火大会を

肌で感じた募金活動」



関東学院大学 硬式野球部

小野寺 秀真（おのでら しゅうま）さん

私は去年の金沢まつり花火大会に硬式野球部の仲間と共に参加し、翌年の花火大会を開催する為の募金活動を行いました。募金をしてくれた方から「ありがとうね」と感謝の言葉をかけていただいたり、「また来年も楽しみにしているよ。宜しくね。」と言われ嬉しかったと同時にとても心が熱くなりました。仙台出身の私は、金沢まつりには初参加でしたが募金活動を通して地域の方々との交流ができ、金沢区の方々の方々の温かさを身に染みて感じる事ができました。

参加する前は正直あんなに人が多く来るとは思いませんでした。「また翌年も来たい」という期待の声も多くあり、この金沢まつり花火大会は地域の方々に愛されていると感じました。

関東学院大学硬式野球部としても地域の方々との交流は、大切だと考えています。金沢まつり花火大会がたくさんの人に愛されているように、こういった活動を通して1人でも多くの方が関東学院大学硬式野球部のファンになって頂けることを楽しみにしています。

今年の花火大会が中止になってしまったことがとても残念ですが、来年こそは必ず開催して欲しいと願っています。